

令和4年 大阪府立摂津支援学校 第2回 学校運営協議会 実施報告書

1. 日時 令和4年10月11日(火) 10:00~11:50

2. 場所 本校 会議室(中高等部棟2階)

3. 出席者 <学校協議委員>

西野 陽一(元大阪工業大学客員教授) 大矢 優子(摂津市教育委員会教育委員)

松元 広美((株)ダイキンサンライズ摂津総務課長)

佐藤 裕子(茨木・摂津障害者就業・生活センター所長)

中井 啓夫(高槻市柱本自治会会長) 久保田 夏美(本校保護者)

<摂津支援学校>

校長(藤井) 教頭(岩井)(小野) 首席(坂部・平水)

首席兼教務部長(日高) 首席兼部主事(三牧) 部主事(浅井・眞壁)

<傍聴者> 保護者1名

4. 年間テーマ及び協議事項

「創立10周年 新たなステージへ」

主な内容 ①本校の交流活動について ②今年度の取組みの進捗状況について

③学校教育自己診断について ④ICTの活用と実際について

5. 説明、質問、協議内容等

(1) はじめに [進行:三牧] [記録:平水]

・校長あいさつ

先週、中学部の修学旅行に同行した。最近は新型コロナウイルスの影響で大阪方面だったが、3年ぶりに名古屋方面に行けた。来週には、高等部の修学旅行で東京方面に行く。コロナ等で中止になった場合を考え、保険で対応ができるようにしている。様々な教育活動が少しずつ元に戻ってきている。安心して教育活動を送れるようにしていきたい。

・配付資料確認

(2) 学校より報告及び協議 [進行:西野会長]

①本校の交流活動について

教員:本校の交流活動には「居住地校交流」「学校間交流」「地域交流」「きょうだい学年交流」がある。

「居住地校交流」について…今年度小学部11件、中学部7件を実施。

◎中学部の交流活動例

<吹田市立西山田中学校との交流>

・相手校からの提案を受け、月1回実施。授業交流や芋ほり体験、学校祭、作品展示などに参加。

◎小学部の交流活動例

<吹田市立山田第三小学校(1年生)との交流>…どろんこ遊び

<茨木市立葦原小学校(5年生)との交流>…南中ソーラン 他

保護者より「相手校の児童たちが言葉をかけてくれたり手を繋いでくれたりしてすごく嬉しかっ

た」「学童などで知り合いの子どもたちが関わってくれて嬉しかった」などの感想をいただいている。

「学校間交流」について…小学部は、開校初年度より鳥飼小学校、鳥飼東小学校、柱本小学校の3校と、七夕集会や作品展示会、豆まき大会などの交流を行っている。コロナ禍ということもあり、今年度、現時点では実際に対面しての交流は鳥飼小学校のみ。感染症対策として日程や交流学年を分けて行った。（※鳥飼東小、柱本小の2校は、作品展示等での交流。）また小学部4年生が鳥飼小学校4年生の通常学級の児童と自己紹介やゲーム等で交流予定。

中学部は、摂津第五中学校と作品展示交流を実施している。相手校の生徒の作品を自校の文化祭にてお互いに展示し、鑑賞後の感想も交換する予定となっている。

「地域交流」について…3年ぶりに実施された淀川河川敷の「わいわいがやがや祭り」に出店という形で参加。高等部生徒会から6名、中学部希望者16名が、授業で制作した陶器や布製品を販売した。

「きょうだい学年交流」について…本校の中で学部を越えて「きょうだい学年」を設定し、異年齢交流を実施。コロナの影響で昨年度までは対面での交流は難しかったが、今年度は再開し、先日は小1と高1でボウリングや魚釣りゲームを行った。

委員：様々な取り組みが必要。地域の学校の児童生徒が支援学校に来ることはないのか？

教員：近隣の学校には声をかけているが、例えば中学生になるとテストや部活等があったり、せっかく関係ができて担当教員が異動したりして難しいことがある。

委員：居住地校交流は、希望者すべてが実施できているのか？

教員：コロナの影響で断られる学校や、話を進めていても保護者の方から断られる場合もある。

委員：国際的に日本の特別支援教育が非難されているというニュースがあったが、交流活動は大切だと考えている。20年くらい前は相手校が交流に消極的な印象があったが、現在はどうか？

教員：小学校は、地域にもよるが、相手校が積極的なことが多い。時間割を柔軟に変更、活用しやすいことも一因と想像される。中学校は、教科担当制になってくるので時間割の変更や活用が難しくなるのではないかと。中学部は居住地校交流を始めて、今年で約6年になる。地域の小学校や本校の小学部で居住地校交流を経験し、本校中学部に入学後、引き続き交流を希望するという生徒もいる。

委員：だいたい全体の何%くらいの保護者が居住地校交流を希望しているのか？

教員：小学部は全児童（118名）のうち約15名程度。

中学部（全生徒109名）は、各学年で2、3名程度が希望、交流を実施。

②今年度の取組みの進捗状況について

教員：「校長室だより」より～最近の取り組みについて

名古屋から劇団の方を招き、小学部児童がミュージカル鑑賞をした。また摂津ロータリークラブさんより、グラウンドゴルフセットを寄贈いただいた。来月予定している「グラウンドゴルフ大会」に先立って、先週11名の同クラブ会員の方々と練習会を行った。交流をする中で、支援学校の子ども達の事を知ってもらい、進路先にも繋がってほしいと期待している。

高等部で校内実習週間という取り組みを行った。生徒を縦割りグループでグルーピングし、3年生がリーダーになり、一週間、作業だけに集中して取り組む。委託グループでは納品チェックなど全て生

徒で行っている。誰が見学にきても大きな声で挨拶をしており、とても印象的だった。各々が自分の作業に責任感を持って取り組み、先輩から後輩へ働く意欲が伝わるのが期待される。

～個別の指導計画の様式変更について

一昨年度より学習指導要領が改訂された。先行きが不透明な世の中を生き抜いていく子どもたちに、一人ひとりが自分で考えて生きていける力を育成しようという考え方にシフトし、それに伴って学習評価の観点に変更された。支援学校でも指導と評価を一体化させ、観点別評価を取り入れることとなった。これまで各校ごとに異なっていた年間指導計画（シラバス）を府内統一様式で作成し、一人ひとりに何を学ばせるのかを示す計画（個別の指導計画）に落とし込み、授業として実践し、評価を行うというのが一連の流れとなる。本校では観点別評価がバランスよく行えるように、また保護者に伝わるようにと、個別の指導計画の様式を昨年一年間かけて検討し、変更した。今月、初めて新様式での評価を保護者にお渡しした。お渡しした評価については個人懇談で、話し合う機会を設けている。

委員：「個別の指導計画」のマニュアルが素晴らしい。保護者がわかりやすいところも良い。観点別評価等、変更部分は保護者に説明しているのか？

教員：ポイントを絞った説明プリントを配付している。また今月の個人懇談の場で、担任より説明する。

委員：保護者間では、話題になっているか？

委員：観点別の評価や様式の変更など初めて聞いたので、来週のPTAの集まりでも周知したい。

教員：保護者に伝わりやすい文章が書けるように、教員研修などをしていく必要がある。

②学校教育自己診断 資料③より

教員：運営協議会の委員の方のご意見をもとに、7月以降、変更している部分がある。

・実施方法について

教職員、保護者と共にGoogleフォームでの回答に変更。今年度は初回ということもあり、保護者には紙での回答も選択できるように用紙も配付する。

・集計方法について

紙で提出された回答については、教員がGoogleフォームに入力しなおす。

・内容の検討について

R3年度の運営協議会で検討いただいた事を踏まえ、内容の改定を行った。

・改定内容について

学校の発信の指標となるということで「わからない」の項目を設け、集計に入れる。

今年度学校として重点項目ではないものは検討し、削除した。

・質問内容の変更について

府の通知に合わせて、ICTを児童生徒1人1台端末の表記に変更した。

もう少し具体的な文言に変え、保護者が答えやすいようにするというので「知的障がい支援学校として」「摂津支援学校の子どもたちにとって」に変更している。

授業力に関しても、学校経営計画に沿うように文言を変更。

校内人事の項目は質問内容が2つとなり回答の評価をしにくいので、府のモデルに戻している。

- ・昨年度コロナのため削除していた交流、部活動の項目を復活。ただし、部活動に同好会、対外試合を追加。中学部は部活動、高等部は今年度、同好会、対外試合への参加となっているため。
- ・校内支援について、学校経営計画に合わせて項目を追加している。

委員：グーグルフォームの活用は最初は混乱等も予想されるが、継続してほしい。間違っ紙とグーグルフォームの両方に回答してしまった時にどちらかを省くことはできるのか？

教員：今のところ、省くことはできない。

委員：間違えて2重に回答しても、申告しない人もいる。その時に防げる手段を今後考えてほしい。

教員：グーグルフォームの活用は、教育庁の指示。府全体や校長会で情報共有し、他校の現状も聞き、対応していく必要がある。

委員：回答は何度もできるのか？また、イラスト版は意欲的に回答ができそうで良い。

教員：何度でも回答できる。1度だけしか回答できないように、厳密に設定するのなら、メールアドレスを収集しなければならない。

委員：集計結果はいつ頃わかるか？

教員：12月ごろには集計結果をメールでお知らせし、第3回の運営協議会で議題にする予定。

③ICTの活用と実際について 資料④より

教員：R3年12月中旬ごろに活用プランを作成し、1月～3月は毎月1回、教員全体研修を行った。

R4年度も毎月教員全体研修を行っている。また、情報機器の貸し出しについても検討した。

今後の課題として、教員の情報機器を活用した授業力の向上や、児童生徒の情報機器活用スキルの向上、情報機器活用に向けてのルール作りなどがあげられる。

委員：子ども達がICT機器を使えるようにしてほしい。アプリなどを使って1人で何かをする時に使えるようにしてほしい。生活のツールとしての活用。また昼休み等の使い方を考えてほしい。

委員：小学部、中学部はどのように使用している？

教員：ただ渡すだけではなく、使い方などを指導しながら使用している。

教員：今までは昼休みに自由に使うように渡していたが、コミュニケーションが希薄になってきていたので、学部としてルール作りをしている。例えば、学部内でのアルバイト等を行い、ポイントなどを貯めて使用できる時間を作るとか、頑張ったら使用できるようにしていくことも考えている。

委員：小学部、中学部でスマートフォンを持っている生徒はいるか？

教員：中学部は持っている生徒も多い。

教員：学校に持ってきている児童はいないが、家庭で持っている児童はいると思う。

委員：今後の課題というより、ルール作りは早急に必要。学校の機器を使う時とプライベートの物を使う時との違いを明確にできるようにするべきではないか。

委員：新システムの定着は大変だと思うが、プロ意識を持って取り組んでほしい。

委員：子ども達の端末は全員同じか？使いにくい子ども達はいないのか？

教員：端末はみんな同じだが、アプリに関しては追加で入れられる。

(3) まとめ

委員：いつも積極的にご意見をいただいて、司会として助かっている。

校長：ICT 機器を使って効果的に授業を行うため、使い方などを研究していく必要がある。その一つとして、今年度は夏休みに教材研究として3日間の教材展示会を行った。他学部の教員に教材の作り方や使い方を聞いたり、試したりして、知識を深めた。しかし、児童生徒には1人1台端末があるが、教員にはない状態。学校予算で少しずつ買い足している。またネットワークの状態も悪く、動画が途中で止まってしまったり、グーグルミートも同時に100名までしか使えなかったりするので本校の教員全員で使うことは難しい。今後も、委員会等へ声を上げていく。

コロナに関しては、4月のはじめに少し感染者はいたが、その後落ち着き、9月に少しまた出てきた。9月中旬以降は再び落ち着き、10月は今のところ1名のみである。学校行事も少しずつ元の形に戻していけるように感染症対策に気を付けて取り組んでいる。

今後とも貴重なご意見をいただき、本校教育活動にご支援を賜りたい。

(4) 事務局より連絡

三牧：次回は、2月6日(月)

【配付資料一覧】

- ① 次第 ②令和4年度 学校経営計画 ③学校教育自己診断 ④交流について ⑤GIGA スクール構想
を推進するための本校の取り組み *追加資料 「校長室だより」「個別の指導計画マニュアル」